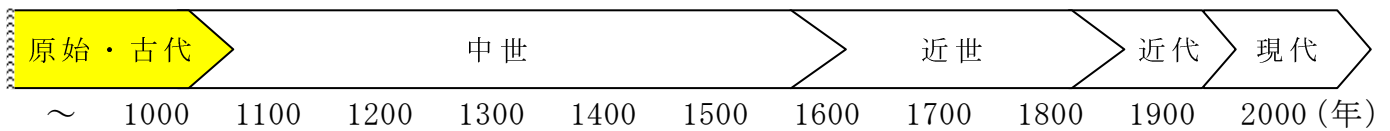


2 やまとせいけん 大和政権とひろしま みじょうこふん ～三ツ城古墳～



1 三ツ城古墳とはどのような遺跡でしょうか？



三ツ城古墳の全景（撮影：井手三千男）

三ツ城古墳は、東広島市西条中央にあり、南の八幡山からのびる丘陵の先端を利用して造られた3基からなる古墳です。第1号古墳は、全長約92mの広島県内最大の前方後円墳で、5世紀前半に造られました。第2号古墳も5世紀前半に造られた円墳ですが、第1号古墳より前に造られたものと考えられています。また、第2号古墳の周溝(周りに掘られた溝)内にある第3号古墳は楕円の形をしており、6世紀前半頃に造られたと考えられています。



三ツ城第1号古墳はどのようにして造られ、どのような人が埋葬されていたのでしょうか？

2 県内最大の前方後円墳である第1号古墳はどのような古墳でしょうか？

第1号古墳は、墳丘が3段に築かれており、各段に埴輪を立て並べ、上2段の墳丘斜面は葺石⁽¹⁾で覆われています。埴輪の総数は1800本余りで、円筒埴輪

のほか、前方部に ^{にわとり} 鶏，^{みずとり} 水鳥，^{かぶと} 冑，^{たんこう} 短甲などの形をした埴輪が、後円部に家形の埴輪が置かれています。墳丘の周囲には、深さ約 1 m の周溝が掘られています。古墳の左右のくびれ部には、^{さいだん} 祭壇と考えられる四角い形の造出があります。



朝顔形埴輪（中央）
高さ 75～85cm
円筒埴輪（左右）
高さ 60～70cm
（東広島市教育委員会蔵）



復元された埴輪の列（東広島市教育委員会提供）

3 古墳はどのように造られたのでしょうか？

古墳を造ることは、優れた技術（技術者）と多くの費用、一度に大勢の人々を動員する必要がある大規模な土木工事です。工事を行う人の手配と食料等の用意、古墳を造るのに必要な道具の手配、大量の埴輪を作る工人集団の準備など、すべてが綿密な計画のもとに進められました。

古墳は、次のような順序で造られたと考えられています。



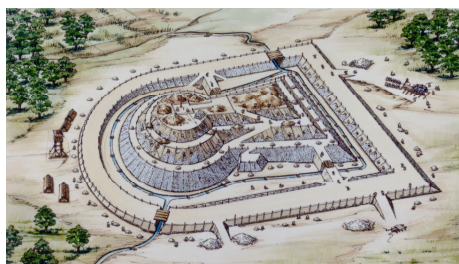
①古墳を造る場所を選ぶ。



②設計図をもとに地面に線を描き、目印になるところに杭を打つ。



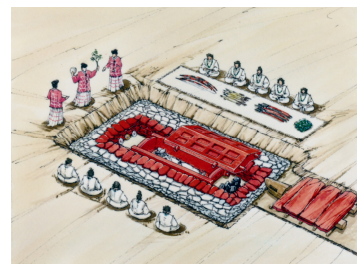
③地面を掘り下げて、周溝をつくり、その土を堀の内側に盛り上げていく。



④形が整ったら、墳丘の斜面に葺石を並べる。修羅という木のそりに石をのせて頂上に運び、石棺を組み立てる。



⑤埴輪を墳丘や堤に立てて並べる。



⑥首長の死後、遺体を頂上に運び、葬送の儀式を行う。石室を土で覆うと完了する。

古墳の造り方（藤井寺市教育委員会提供）

4 第1号古墳に埋葬されているのはどのような人物だったのでしょうか？

第1号古墳の後円部から、埋葬施設(遺体を納めた場所)が三つ見つかりました。

1号埋葬施設は後円部の中心からはずれた位置に造られており、箱形石棺^{はこがたせつがん}(²)の周りを小さな石を積んで囲ったものです。2号埋葬施設は後円部の中心に造られ、箱形石棺の周りを平らな石で囲んで二重の箱形石棺のようにした構造で、さらに小さな石を積んでその周り



第1号古墳の埋葬施設(東広島市教育委員会提供)

を囲んでいます。棺の内側の大きさは一番大きく、また2トンを超えるような大きな石が使われていました。3号埋葬施設は中心からはずれた位置に造られ、平らな石を組み合わせただけのもので、大きさも一番小さな埋葬施設です。

また、1号埋葬施設からは女性の人骨、銅鏡や首飾り^{くびかさ}、鉄製の刀などが、2号埋葬施設からは男性の人骨、首飾りや櫛^{くし}、銅製のブレスレット、鉄製の刀などが、3号埋葬施設からは首飾り、鉄製の剣や鉾・鏃^{ほこやじり}が出土しています。

古墳について研究する際、埋葬施設が造られている場所、埋葬施設の構造や大きさ、さらに、内部から見つかったものは、そこに埋葬された人物について考える重要な手がかりとなります。

この古墳では、後円部の中心に造られた最も丁寧で大きな2号埋葬施設に埋葬された男性が中心的な人物であると推測できます。

第1号古墳は、広島県西部(後の安芸国^{あきのくに})で最大の前方後円墳であることから、この男性は広島県西部を統率^{とうそつ}した首長で、大和政権に属した豪族^{ごうぞく}であることが分かります。しかし、大和政権の中心部である近畿地方のものと異なり、弥生時代から広島県西部で盛んに造られてきた箱形石棺に埋葬されていることから判断すれば、地域に根ざした豪族ではないかと考えられます。

なお、第1号古墳が造られた古墳時代中期(5世紀代)は全国的にも古墳が巨大化する時期で、日本最大の古墳である大仙(仁徳陵)古墳(大阪府)もこの頃に造られました。



第1号古墳の埋葬施設の出土品
(広島大学蔵)

三ツ城古墳とはどのような古墳なのか、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！



【注】

- (1) 斜面にすき間なく並べられた石。盛り土が流れ出すのを防ぐとともに周囲から墳丘を目立たせる。
- (2) 板石を箱状に組み合わせた石棺。日本では弥生時代から古墳時代に用いられた。

【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

○三ツ城古墳や三ツ城古墳ガイドスコーナーに実際に行って調べてみよう！

- ・三ツ城古墳からどのようなものが出土しているのでしょうか。
- ・どのようにして多くの埴輪を作ったのでしょうか。

○みよし風土記の丘にある古墳を調べてみよう！

- ・みよし風土記の丘にある古墳はどのくらいあるのでしょうか。
- ・みよし風土記の丘にある古墳はいつ頃造られたのでしょうか。

○身近な地域の古墳を調べてみよう！

- ・身近な地域の古墳の形や大きさはどのくらいでしょうか。
- ・身近な地域の古墳はいつ頃造られたのでしょうか。

この前、家族で「みよし風土記の丘」に行ってきたよ！みんなも行ってみよう！



◇東広島市立中央図書館内三ツ城古墳ガイドスコーナー

住所：東広島市西条中央7-25-11 TEL：082-424-9449

HP

※古墳築造を再現した模型や出土した埴輪や副葬品が展示されています。

◇広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘

住所：三次市小田幸町 122 TEL：0824-66-2881

HP

※広島県内の遺跡から出土した原始・古代の遺物を中心に展示されています。

◇広島県立歴史博物館

住所：福山市西町2-4-1 TEL：084-931-2513

HP

【もっと知りたい！郷土の歴史】

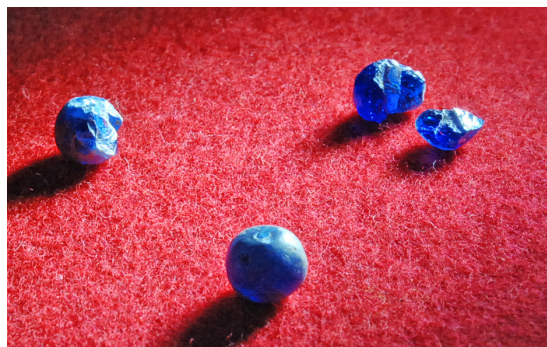
古代ローマ帝国産ガラス

まつがさこやだにいせき
～松ヶ迫矢谷遺跡(三次市)～

三次市東酒屋町の松ヶ迫矢谷遺跡にある弥生時代末の王の墓(矢谷墳丘墓・3世紀前半)を取り囲む墓から出土したガラス玉3点(直径約1cm)が古代ローマ帝国産ガラスで作られていた可能性の高いことが分かりました。

ガラス玉は、1977(昭和52)年、三次工業団地造成に伴って行われた発掘調査で埋葬施設から出土しました。コバルト色で、長さ7.3～7.9mm、直径8.8～9.9mm。中央に穴が空けられ、装身具の一部に使われたと推測されています。奈良文化財研究所が分析した結果、これらのガラス玉はローマ帝国産ガラスの特徴を示しました。ガラスの産地は、地中海沿岸から中東にかけてのエリアと考えられますが、玉形に加工したり、色付けしたりした地域は不明です。広島県立歴史民俗資料館は、「ローマ帝国産のガラスで作られたと推測されるガラス玉としては国内最古級で、1800年前の物流が確認できる貴重な資料である」と説明しています。

三次に古代ローマ帝国産ガラスでつくられたガラス玉があったなんてすごいなあ！弥生時代の頃に日本は世界とつながっていたんだね。



松ヶ迫矢谷遺跡のガラス玉
(広島県立歴史民俗資料館蔵)